



**！雨が降った後も注意！
河川の氾濫**

次に訪れたのは、荒砥川の水位観測所です。この河川流域は氾濫や浸水の危険性が高い場所が多く、過去に何度も氾濫。中でも、今から70年前のカスリーン台風では大きな被害が出ました。

「市内の河川水位は随時チェックしています」と話すのは危機管理室の片貝さん。テレメーターとい



①どのくらいの水位になると危険なのか、説明を受けました。
②防災マップには水位ごとの危険レベルが詳しく載っています。

う機器で水位を測っていて、これを基に、避難勧告などの避難情報が市から発令されます。河川の氾濫に対しては、雨が降っているとまだだけでなく、降り終わった後に水位が高くなることもあるので注意が必要です。

市内には他にも氾濫の危険がある河川があり、実際に浸水被害が出たことも。流れが速いと10秒くらい水位でも歩くのが難しいというので驚きです。そうなる前に早めに避難しておきたいですね。

それから、氾濫の範囲は、河川の上流と下流で大きく異なること。これは防災マップを見ると明らかです。自分の家と河川との関係や、もしものときの避難場所などを、防災マップを見て確認しておけば、安心です。



**ワカモノ
記者**

現地を徹底調査！
知っておけば安心な危険箇所

市民が作る
市民編集
のページ
Vol.122

前橋市 総合防災マップ

防災マップ 改めて確認を

各家庭に配布されている、前橋市総合防災マップ。風水害や土砂災害、地震などの情報とハザードマップを掲載していて、災害への備えをするときに便利です。市役所危機管理室や各支所・市民サービスセンターで配布中。前橋市ホームページでもチェックできます。

！身を守る行動は今からできる

「自分が住む地域にはどんな危険があるのか、自分自身の目で確認してほしい」と片貝さん。行政も全力で災害対応に当たりますが、公助だけでは安全は守りきれませんが、自分の地域が何に対してどのような危険なのか確認したり、日頃から隣近所と話し合ったりする、自助と共助の姿勢が必要不可欠です。

しまつてある防災マップ。この機会に改めて読んでみては。いざというとき、最後に身を守るの自らの行動次第。いつかのための行動が今こそ必要です。

！いつ発生するか わからない！土砂災害

最初に訪れたのは、大胡地区の土砂災害（特別）警戒区域。防災マップの中で黄色と赤色で示されている区域は、この他に宮城や富士見地区、利根川沿いなど、市内に71カ所も存在すること。私たちが訪れた場所には生々しい崩れの跡が。すぐ下には住宅地もありました。今にも崩れてきそうな雰囲気、身に迫る危険を感じました。

この時期に多くなる大雨。この時に市内ではどこが危険になるのかを知っていますか。実は皆さんの家庭に配られている「前橋市総合防災マップ」(以下防災マップ)に掲載されているのです。これを見ると、市内には意外にも多くの危険箇所が。私たちワカモノ記者が実際にその場所を訪れて調査しました。

担当 奥田柳太郎・川田和樹
☎危機管理室 ☎027-898-5935

ワカモノ記者の
Instagramとフェイスブック
やっています！

取材の様子などを公開中。
ぜひご覧ください。

Instagram フェイスブック

編集後記

防災マップを読むと「大丈夫だろう」は「大丈夫かな」に変わるはず。(川田)

防災マップを見て、避難方法や集合場所を家族と相談しようと思います。(奥田)

危機管理室の高橋さんは「土壌に雨がたまることで災害発生の危険性が高まります。土砂災害警戒情報が発表された時は、いつ発生してもおかしくない状況を考えてほしい」と話します。九州北部での被害も記憶に新しい土砂災害。人も建物もみ込んだ光景は衝撃的でした。平時から、自分の住む地域は土砂災害の危険があるのか確認しておけば、避難情報が出た時にすぐに行動することができます。



①土砂災害の危険がある場所。木の根がむき出しになっています。②「土砂災害警戒情報が発表されたときは、その地区の自治会にも伝達しています」と高橋さん。